

世界の国を知る  世界の国から学ぶ

わたしたちの地球と未来




エルサルバドル共和国




【表紙の写真】

(左上)
民族衣装を着てパレードに参加する子どもたち

 原崎 康穂

(右下)
サンサルバドル中心部の国立劇場
国内の象徴的な建物です

 井上 博

Contents

- 01 こんな想いを込めました!
- 02 こんな教材です!
- 03 なぜエルサルバドル共和国?

第1章 エルサルバドルってどんな国? = 『中米の日本』と呼ばれた国 =

- 05 エルサルバドルのウソ? ホント?
- 07 エルサルバドルお買い物ゲ〜ム
- 09 作っちゃおう! エルサルバドルの伝統料理

第2章 へえ〜! エルサルバドルと日本

- 13 エルサルバドルと日本の関係...ウソ?ホント?
- 15 マヤブル〜復活!
- 17 地球は生きている! ~火山と地震の国~
- 19 フォトギャラリー

第3章 一緒に考えよう! こんな課題

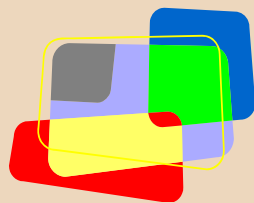
- 21 ごみはごみ箱に捨てましょう!!
- 23 サッカー戦争...平和な社会をつくるには?
- 25 ちょっとブレイク
~ エルサルバドル内戦 ~
~ エルサルバドルに残るマヤ時代の遺跡 ~

第4章 そして未来へ

- 27 『多文化共生社会』ってどんな社会?
- 28 号外! 号外! 20年後の新聞です
- 29 多文化共生社会と地球的課題

参考資料

- 31 目で見るエルサルバドル
- 33 エルサルバドル地図
- 35 参考文献・データ等の出典
- 35 ご協力いただいた方たち
- 35 2008年度教材作成チーム



こんな想いを込めました！

愛知万博で体験した国際交流の楽しさを広げていきたい！つなげていきたい！
そんな想いが本書作成のきっかけでした。



国際交流は楽しい！

『世界大交流』をうたった2005年愛知万博。120カ国の文化や生活に触れたり、いろいろな国の人たちと話をしたりすることは、とても楽しい経験でした。「国際交流」は決して難しいことではありません。自分の視野を広げ、他者を尊重する力を育むことにもつながり、そうした力は多文化共生社会を実現するためにも欠かせません。そんな国際交流の楽しさ、大切さを愛知から発信していきたいと考えました。

人の顔が見える教材をつくりたい！

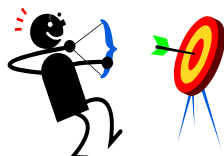
「日本ってこんな国」「日本人ってこんな人」って決めつけられて違和感を感じた経験はないでしょうか？ 国全体の概要を知ることもちろん大切ですが、何となく持っている固定概念をもしかしたら裏切るような、「へえ～、こんな一面もあるんだ」と意外に思えるような、そんな教材をつくりたいと考えました。そうすることによって、「わたしたちが世界のことをいかに知らないか」ということや「普段見聞きしている情報はほんの一面にすぎない」ということに気づいてもらうとともに、そこに住んでいる人々を身近に感じてもらえたらいいなと思います。

世界の国から学ぶ！

どんな国もいいところ、悪いところ、いろいろな面を持っています。何が幸せなのか、「豊か」の基準は何なのか、といった価値観もさまざまです。例えば、途上国だから「かわいそうな国」ではありませんし、紛争があるから「こわい国」でもありません。日本にもたくさん問題があります。様々な国の、特にすばらしいところを知ることによって、対等な関係をつくとともに、自分たちの地域や生活をふりかえることができると考えました。国にも人にも文化にも優劣はないことを踏まえて、お互いに学び合える関係ができればいいなと思います。

未来を創るのはわたしたち！

地球はさまざまな課題を抱えています。環境や人権や平和など、日本も無関係ではありません。地球に住む一人ひとりがそれらの課題に取り組まなければ、よりよい未来を創ることはできないのです。そしてよりよい未来を創るためには、今、地球で起きていることは何なのかを知り、それが自分とつながっていることに気づくことが大切だと考えました。本書に掲載されていることは、地球で起きていることのほんの一部ですが、それらを通して感じたこと、気づいたことが未来につながっていくといいなと思います。



こんな教材です！

次のようなことを考えて作りました。

ファシリテーター・先生用の教材です

内容については、小学生高学年以上を対象としていますが、本書自体は、ファシリテーター(参加型プログラムの進行役)や先生に使っていただくための教材となっています。ことば遣いなど、対象に合わせて直してください。必要に応じてコピーし、配布していただいても結構です。

参加型で使うことができる教材です

情報・知識を聞くだけでなく、考えたり、作業をしたり、話し合ったりすることによって楽しく学べるとともに、その中で何かを感じたり、気づいたりしてもらえようようなプログラムにしました。基本的には4~6人のグループに分かれて行うプログラムになっています。必ずしも正解があるものばかりではありません。参加型のプロセスを大切にしてください。

きっかけづくりの教材です

本書で紹介したのは、エルサルバドルのほんの一面です。本書だけでエルサルバドルのすべてがわかるわけではありません。エルサルバドルに親しみを感じ、関心をもってもらうと同時に、自分たちの地域をふりかえり、地球的課題を考えるきっかけとして活用してください。

使い方は自由です


とはいうものの、使い方は自由です。もちろん、最初から順番にやる必要はありません。対象に応じてプログラムの進め方を変えたり、時間的な条件によって短縮したりするなど調整することもできます。参加者にあわせてどんどんアレンジして使ってください。巻末に参考資料を掲載していますので、最新のデータが必要なときや、もっと深めたいときは、活用してください。













カラーデータ・写真はダウンロードできます

カラーデータ・写真については、(財)愛知県国際交流協会のホームページからダウンロードできます。ただし、著作権は出典元または(財)愛知県国際交流協会に帰属します。学校関係や国際交流団体等が教育の目的で非営利に使う場合に限り、活用していただけます。

本書の構成とマークの見方

基本的に、1項目2~4ページで掲載しており、実際に使ってくださいプログラムと、それに関する説明とで構成されています。それぞれのプログラムの「ねらい」も記載していますので、参考にしてください。また、ページの下段に掲載している一口コラムは、プログラムとは関係なく、ちょっとおもしろい情報や用語の意味などです。必要に応じて活用してください。なお、本書で使っているマークの意味は次の通りです。



	参加型のプログラムです。必要に応じてコピーし、配布してください。		プログラムで模造紙を使います。
	プログラムに関する説明です。ファシリテーター・先生用です。		プログラムでマジックを使います。
	プログラムのねらいです。		プログラムで付箋を使います。
	ちょっとブレイク一口コラムです。		プログラムでA4用紙を使います。裏紙等を活用してください。
	プログラムに使う資料です。必要に応じてコピーし配布してください。		データ等の出典です。
	コピーし、カード等に切り離して使ってください。		写真の撮影者です。

なぜエルサルバドル共和国？

始まりは、2005年愛知万博「一市町村一国防レンドシップ事業」

2005年に開催された愛知万博の会期中愛知県内の市町村は、公式参加国120カ国(日本を除く)のホームシティ・ホームタウンとして、地域ぐるみのホスピタリティあふれる受入を行いました。この取り組みを「一市町村一国防レンドシップ事業」と言います。このフレンドシップ事業では次の5つのことをねらいとしました。

- 世界各地から訪れる人々に日本や日本人を理解してもらう
- 迎え入れる地域の人々に、交流を通じて、世界には多様な価値や文化があることを知ってもらう
- 万博会場内だけでなく、地域でもてなすことで、万博を相互交流を深めるための大きな舞台とする
- 地域文化を世界に発信することにより、各地域が自らの文化を再発見し、地域のあり方や発展の方向性について学ぶ機会とする
- 地域に根ざした「人」と「人」との交流を万博終了後も引き継ぎ、世界の人々をつなぐ架け橋としてさらに発展させる

この「一市町村一国防レンドシップ事業」をさらに広げ、つなげていこうと作成したのがこの教材です。

そして、エルサルバドル共和国のホームシティは、北名古屋市でした。

：本教材
：2008年度教材作成の国
：2007年度教材作成の国
：愛知万博公式参加国

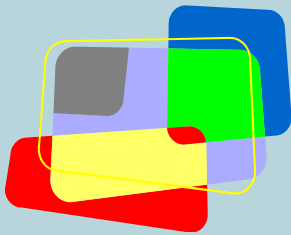
愛知万博 / 中米共同館



第1章

エルサルバドルってどんな国？

= 『中米の日本』と呼ばれた国 =



エルサルバドルのウソ？ホント？

❓ 次のカードはエルサルバドルを紹介したものです。さて、ホントの話？



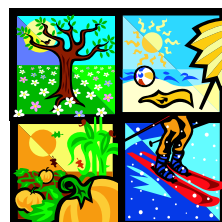
① 国名「エルサルバドル」は、最初に上陸したスペイン人の名前にちなんでつけられました。



② エルサルバドルは、中米で最も人口密度の高い国です。



③ エルサルバドルにも日本と同じように四季があります。



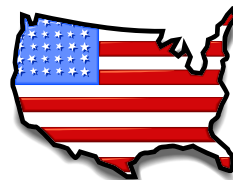
④ エルサルバドルは、国土が狭く、火山は有名なイサルコ火山がひとつあるだけです。



⑤ エルサルバドルの学年は、9月に始まり、6月に終わります。



⑥ アメリカ合衆国には、エルサルバドル人が200万人以上住んでいます。



⑦ サン・テグジュペリの「星の王子さま」は、エルサルバドル人の妻コンスエロにささげた物語であると言われています。



⑧ エルサルバドルの学校では、給食にトウモロコシで作られたトルティージャが出されます。



⑨ エルサルバドルの通貨単位は「コロン」です。





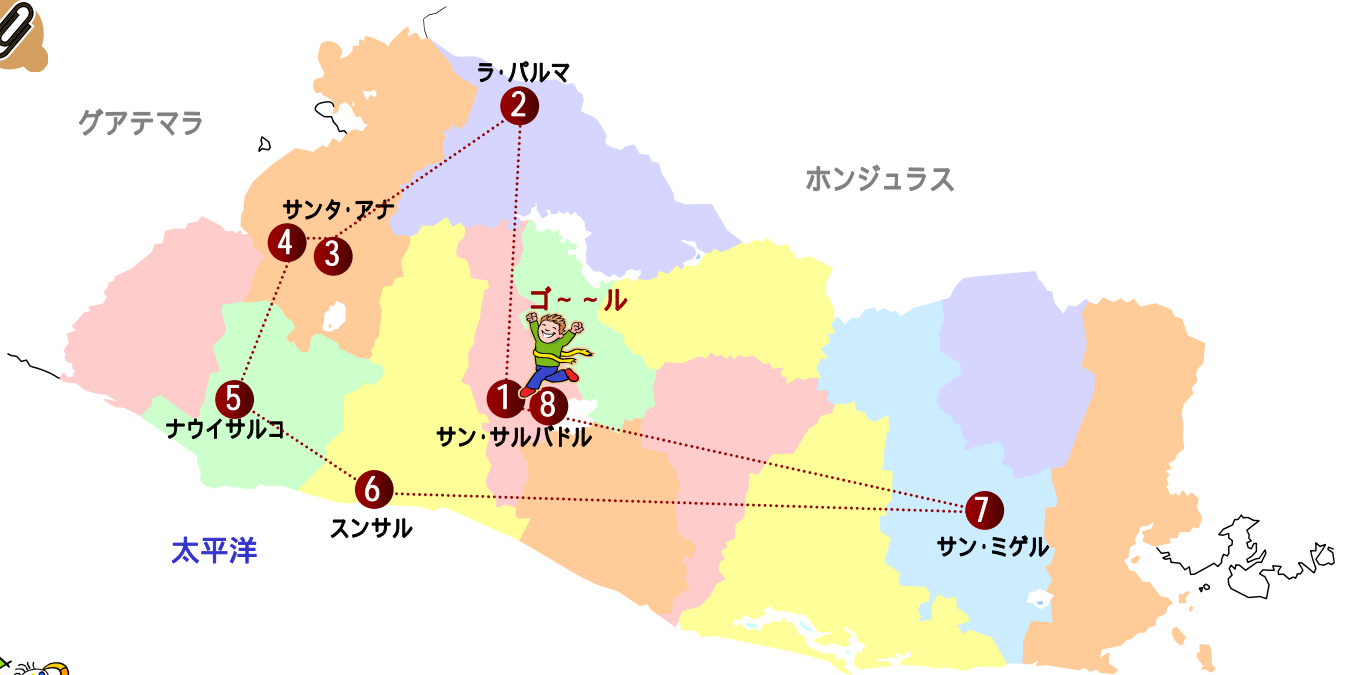
- 1 **×**
ウソ 「エルサルバドル」はスペイン語で『救世主』を意味します。「EL SALVADOR」の「EL」は男性名詞の定冠詞で、首都サンサルバドル(SAN SALVADOR)は「聖なる救世主」という意味です。ちなみに、コロンブスが発見した「サン・サルバドル島」は西インド諸島、バハマにある島です。おまけですが、スペイン人の画家ダリは、サルバドール・ダリといいます。
- 2 **○**
ホント 本当です。グアテマラ、ホンジュラス、ニカラグア、コスタリカ、エルサルバドルの中米5カ国の中で、エルサルバドルは最も国土が狭く21,040km²、人口は6,762千人で人口密度は321.4人です。グアテマラの人口密度は約118人、ホンジュラスは約66人、ニカラグアは約43人、コスタリカは約86人です。ちなみに、日本の人口密度は約339人です。
- 3 **×**
ウソ エルサルバドルの気候は雨季と乾季に分かれ、5月～10月頃が雨季、11月～4月頃が乾季です。国全体は熱帯に属し、首都サンサルバドルは平均気温23℃で日本の初夏を思わせるような心地よい気候です。
- 4 **×**
ウソ エルサルバドルは火山国です。シエラ・マドレ山脈(環太平洋造山帯)が首都サンサルバドルを貫き、25を超える火山があります。(P.17)中でもイサルコ火山(標高1,910メートル)は有名で、今は休火山ですが、かつて赤い頂上がはるか沖合いからも見えたため、「太平洋の灯台」と呼ばれていました。「イサルコ」はナワトル語(かつてアステカ人やその周辺の先住民族が使っていた言語、アステカは14世紀～16世紀にメキシコ中央部に栄えた王国)で「黒曜石のある場所」を意味します。
- 5 **×**
ウソ エルサルバドルの学年は1～10月です。1学期が1～4月、2学期が5～7月、3学期が8～10月で、そのあとは長いお休みに入ります。学校制度は、6・3・2・5制で、義務教育は7歳～15歳(1年生～9年生)となっています。
- 6 **○**
ホント 在米エルサルバドル人は約250万人と言われ、彼らからの家族送金は約33億ドルに達するそうです。(2006年)
 外務省ウェブページ
- 7 **○**
ホント 『星の王子さま』の作者アントワーヌ・ド・サン＝テグジュペリの妻コンスエロ(エルサルバドル生まれ)は、2000年に出版した手記『バラの回想』の中で、『星の王子さま』は自分のために書かれたものであると告白しています。手記によると、『星の王子さま』に出てくる「赤いバラ」はコンスエロのことだそうです。また、サン＝テグジュペリの別の作品『夜間飛行』は、コンスエロへのラブレターをベースに書かれたそうです。ちなみに、サン＝テグジュペリはフランス生まれ、『星の王子さま』の舞台となったのはサハラ砂漠です。でもそういわれてみれば、『星の王子さま』には、イサルコ火山に似た火山もでてきましたよね。王子さま、コンロ代わりに鍋をかけていましたっけ。
- 8 **×**
ウソ 一般に、給食はありません。学校数が少ないことから、校舎を有効に使用するため、朝と昼の2部制をとっているのです。公立の場合、朝の部が7:00～11:30、昼の部が13:00～17:30です。ちなみに、トルティーヤは、メキシコを中心に中米で多く食べられている料理ですが、エルサルバドルでは、トルティーヤにチーズをはさんで焼いた「ププサ」という料理が一般的です。(P.9)
- 9 **×**
ウソ 本国通貨は、コロン(Colon:¢)でしたが、2001年から米ドルも使えるようになり、2004年にはコロンが流通停止になり、米ドルだけが流通しています。

エルサルバドルお買い物ゲ～ム



エルサルバドルの特産品は何でしょう？ 地域によって多様な面を持つエルサルバドルを体感しましょう。

これからグループでエルサルバドルツアーに出かけます。まずはツアー名を考えて、お買い物リストに記入しましょう。このツアーの目的は、「エルサルバドルの特産品を買ってくること」。下の地図とルート表にしたがって、お買い物したものをお買い物リスト（P. 8）に書き込んでください。ただし、各グループにお渡しするお金は50ドル。制限時間は15分です。まちがった品物を買ってきた場合は、その品物の金額分お渡ししたお金から差し引きます。上手にお買い物してきてくださいね。



ルート表

① スタートは、エルサルバドルの首都サン・サルバドルです。まずは腹ごしらえ。エルサルバドルのお料理と言えばこれ!という名物料理を下の3つのうちから選んで買きましょう。

A プブサ 1\$

B タコス 2\$

C ポジョ・フリート (フライドチキン) 2\$

② お腹がいっぱいになったら、チャラテナンゴ県のラ・パルマに行きましょう。ここは、クラフトで知られる山村です。色彩豊かなラ・パルマのお土産を選んで買きましょう。

A お面 5\$

B 置物などの手工芸品 2\$

C ビーズアクセサリー 3\$

➡ P.11へつづく



P.7のこたえと解説です。



エルサルバドルの様々な地域を知ることにより、1つの国を多面的にとらえる。

- 1 [A] 2 [B] 3 [A] 4 [C] 5 [A] 6 [B] 7 [C] 8 [B]

おさらい！エルサルバドルツアー...もう1回

- 1 エルサルバドルの首都サン・サルバドルは「聖なる救世主」を意味します。1525年、スペインの征服者によって建設され、ピラ(村)・デ・サン・サルバドルと名づけられました。その後先住民ピピル族の蜂起が何度も起こり、1528年北東に移動しましたが、地震がたびたび起こることから1532年現在の場所が首都になりました。エルサルバドルはトウモロコシが主食ですが、特にプブサはエルサルバドル料理として有名で、町のあちこちにプブサの屋台があります(P.10)。タコスやメキシコ料理、ポジョ・フリートはエルサルバドルに限らず、いろいろな国で食べられますよね。
- 2 北部のホンジュラス国境近くのラ・パルマは、手工芸品で有名な職人の村です。100以上ある工房では、木や陶器や革に幾何学模様を描く作業が行われています。この模様を村民に教えたのは、エルサルバドルの有名な芸術家フェルナンド・ヨルト。首都サン・サルバドルの多くの建物も彼によって装飾を施されています。
- 3 4 サンタ・アナは、エルサルバドル第2の都市で、コーヒーやサトウキビなどの生産、出荷の中心である商業都市です。近くにはコアテペケ湖などがあって自然も美しく、タスマルやカサ・ブランカなど古代遺跡もあり、観光地ともなっています。カサ・ブランカ遺跡は、日本政府の援助で発掘されたもので、藍の博物館があり、エルサルバドルの藍産業の復活のための活動がなされています。(P.15・16)
- 5 エルサルバドル西部のソンソナテ県とアワチャパン県にまたがるこの地域は、コーヒー農園が広がっています。有名なイサルコ火山(P.17)周辺のナウイサルコ、サルコアティタン、ファユア、アパネカ、アタコなどを結ぶルートは「花街道(ルタ・デ・ラス・フローレス)」として人気の高い観光地です。ピピルの伝統も存続し、民族衣装を身につけた女性も見かけます。ナウイサルコは籐家具の生産とナイト・マーケットで有名です。
- 6 スンサルは、大きな波が打ち寄せ、知る人ぞ知る世界10大サーフィンスポットの1つだそうです。プライベートビーチも多く、エルサルバドルのリゾート地です。
- 7 サン・ミゲルはエルサルバドル第3の都市です。内戦のとき、反政府組織の活動拠点があったことから、町の損傷が激しかったのですが、日本政府の援助などにより道路や橋などの復旧が進められ、現在はエルサルバドル東部の交通の拠点となっています。綿花は、コーヒーと同様にエルサルバドルの主要な生産物で、アメリカ合衆国、グアテマラ、ドイツ、日本などに輸出されています。
- 8 エルサルバドルは繊維製品の輸出国ですが、特に、タオルの産地で、日本にも輸出されています。



原崎康穂



お買い物リスト

ツアー名

	お土産	値段		お土産	値段
1			5		
2			6		
3			7		
4			8		

作っちゃおう！エルサルバドルの伝統料理

① エルサルバドルでは、どんな料理を食べているのでしょうか？



- 1 エルサルバドルの伝統的な料理として「ププサ」というのがあります。さて、どんな料理だと思いますか？ 名前から材料や味、形などを想像して、グループで模造紙に絵を描いてみましょう。（描けたらみんなで発表しあいましょう。）
- 2 「ププサ」は、トウモロコシで作られた生地の中に、肉や豆やチーズなどを詰めて焼いた料理で、何となく日本の「おやき」や「お好み焼き」にも似た雰囲気料理です。では、みんなで作ってみましょう！



ププサの作りかた



● トウモロコシの粉	250g	● チーズ	150g
● 水	2カップ	● 豚肉	200g
● インゲン豆	150g	● 塩・コショウ	少々
● ニンニク	1片	● オリーブオイル	少々
● タマネギ	¼個	● サルサソース	お好みで

- 1 フリホーレスを作ります。まず、インゲン豆を塩茹でし、みじん切りしたニンニクとタマネギ、塩を加えてミキサーで細かくし、オリーブオイルで炒めてペースト状にします。
- 2 豚肉を塩茹でし、塩コショウで味つけして細かく切ります。
- 3 トウモロコシの粉に塩と水を入れて練り、フリホーレス、豚肉、チーズを包みます。
- 4 丸くしたあと、平らに形を整えて、両面焦げ目がつくまで焼きます。
- 5 お好みでサルサソースをつけて、いただきます。

- 3 その他、エルサルバドルには次のような料理があります。それぞれの写真はどの料理だと思いますか？ 下のヒントを読んで、結んでみましょう。

A



① プラタノ・フリト

B



② タマーレス

C



③ カサミエント



調理用のバナナのことをプラテンといいます。タマーレスは国によってヤシの葉やコンゴの葉を使ったりします。カサミエントは「結婚」という意味です。日本ではお祝い事するとき、赤飯を食べたりしますよね。

📷 A:井上博 B・C:原崎康穂



- 1 B
- 2 C
- 3 A

エルサルバドルの主食

エルサルバドルを始めとする中南米諸国では、トウモロコシをベースにして焼いたパンのようなものを主食としています。多くの地域で食べられている「トルティーヤ」はその代表です。メキシコでは薄く焼いたトルティーヤをよく食べ、それに野菜や肉をはさんだのがタコスです。エルサルバドルのプブサは厚めのトルティーヤの生地に豆やチーズや豚肉などを入れた料理なのです。その他、グアテマラやホンジュラスなどでも食べられています。

中米ではイモ類は栽培されず、トウモロコシは紀元前4000年にはメキシコで栽培が始められたと言われています。エルサルバドルでも古代の遺跡から、トウモロコシを粉にする道具がたくさん見つけられています。また、エルサルバドルはマヤ文明の玄関口と言われていますが、マヤ人の主食はトウモロコシだったと言われ、「トルティーヤ」や「タマル」を食していたようです。フランシスコ会宣教師ディエゴ・デ・ランダが記したマヤ人の食生活に関する著書によると、マヤ人は1日に3回食事をとり、トウモロコシ粥などを食べていたようです。また、カカオからバターのような脂肪を取って、それをトウモロコシに混ぜた飲み物を作っていたようですが、これが現在のチョコレートの基となったと言われています。

エルサルバドルの料理

中米の料理と言えば、何となく唐辛子で辛いというイメージがありますが、エルサルバドルの料理はそれほど辛くありません。主食は上記にあるようにトウモロコシですが、お米も食べます。日本で食べているジャパニカ米ではなく、長細いインディカ米で、油で炒めていただきます。

プブサはナワトル語(メキシコなどのインディオが使っていた言葉)の「ププシャウア(pupushahua)」からきていて「膨れたもの」を意味するそうです。「プブサ」を焼く土製のフライパンを「コマル」、プブサを売る店を「プブセリア」といい、エルサルバドルの町にはあちらこちらにプブセリアがあります。

プラタノ・フリトは揚げバナナ。調理用バナナを揚げたものです。**タマーレス**は、バナナの葉にトウモロコシの粉の団子などを包んで蒸した料理、**カサミエント**は米にフリホーレス(インゲン豆)を入れて炊いたものです。

プブサはエルサルバドルの名物料理ですが、その他の料理は、少しずつ名前や材料が違ってはいるものの、中南米の国々の多くで食われています。



エルサルバドル定番の食事
(プラタノ・フリト・チーズ・フリホーレス)

原崎康徳



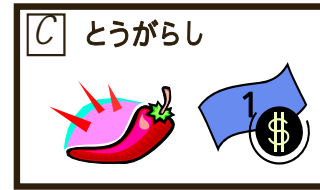
プブサをつくっているところ



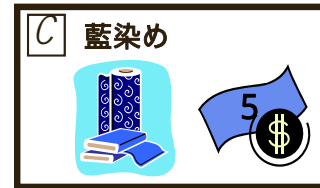
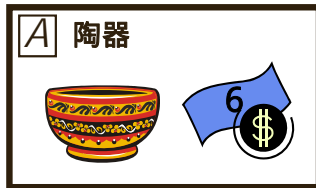
プブサ

➡ P.7のつづき

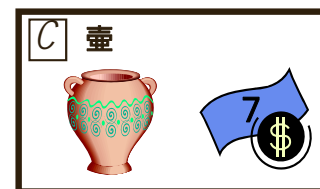
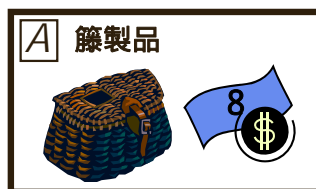
- 3 次に向かうのはサンタ・アナ県、エルサルバドル第2の都市サンタ・アナがあります。この地域は、地理的条件や気候の関係である製品を作るのに適しています。その製品を買ってきてください。



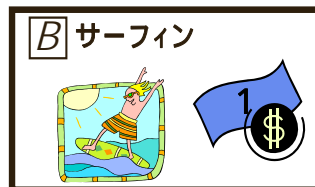
- 4 サンタ・アナには、日本の援助を受けて発掘されたカサ・ブランカ遺跡がありますが、ここでは、以前エルサルバドルで盛んだったある製品を復活させるための活動が行われています。その製品を買ってきてください。



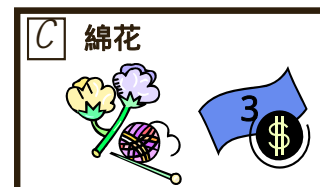
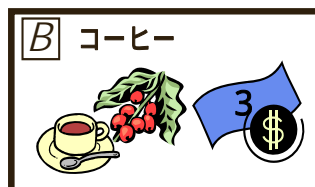
- 5 では、イサルコ火山で有名なソソナテ県に行きましょう。ナウイサルコでは夜遅くまでメルカード(市場)が開かれています。そこで、この町の生産品として知られている製品を買ってきてください。



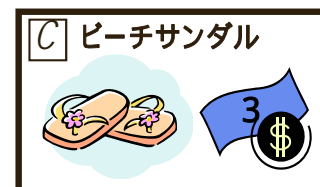
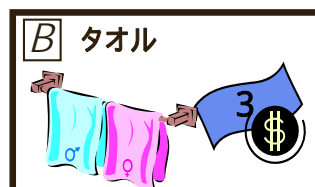
- 6 次はラ・リベルタ県のスンサルです。あるマリンスポーツの有数なスポットとして有名です。そのスポーツが写った絵葉書を買ってきてください。



- 7 最後は、エルサルバドル第3の都市サン・ミゲル県サン・ミゲルです。ここは、サン・サルバドルやラ・ユニオン港とかつては鉄道で結ばれた交通の要所ですが、ある製品の取引と加工の中心地です。さて、その製品を買ってきてください。

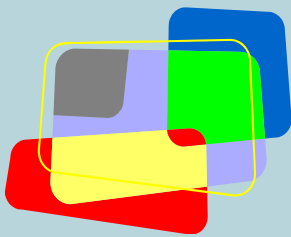


- 8 さあ、いよいよサン・サルバドルに戻ってきました。最後に、エルサルバドルの特産品を買ってきてください。



 第2章

へえ～！エルサルバドルと日本



エルサルバドルと日本の関係...ウソ？ホント？

❓ エルサルバドルと日本にはどんな関係があるのでしょうか？
次のカードに書かれていることはホントの話？



① かつてエルサルバドルは、その勤勉さから「中米の日本」と呼ばれていました。



② エルサルバドルと日本は同じ「環太平洋火山帯」の上にあります。



③ エルサルバドルにJICAの青年海外協力隊が初めて派遣されるようになったのは内戦が終わって落ち着いてからです。



④ エルサルバドルには、日本人の名前がついた公園があります。



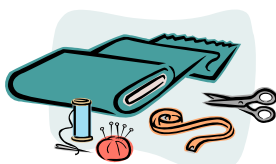
⑤ 残念ながら、エルサルバドルに、日本の企業が工場をつくったことはありません。



⑥ エルサルバドルの国の木であるマキリシュアットは、桜に似た花が咲きます。



⑦ マヤ時代からエルサルバドルに伝わる藍染は、時代とともに衰退し、今はほとんど残っていません。



⑧ 残念ながら、日本政府はエルサルバドルにあまり援助していません。



⑨ エルサルバドルでは、日本のテレビ番組が放映されています。





- 1 **ホント** 本当です。ラテンアメリカ諸国の中で、比較的まじめで勤勉な国民性を持ち、起業家精神にあふれ、親日国であったエルサルバドルは、1960年代から1970年代、「中米の日本」と呼ばれ、中米でも発展した国でしたが、その後、内戦に突入してしまったのです。
- 2 **ホント** 本当です。エルサルバドルは火山国として有名で、地震の多い国です。最近でも1986年と2001年に大きな地震があり、多くの犠牲者を出しています。(→P.17)
- 3 **×ウソ** エルサルバドルに青年海外協力隊が派遣されるようになったのは1968年のことで、ラテンアメリカ諸国の中では一番最初でした。2008年11月現在エルサルバドルへの隊員派遣数は34名。これまでに派遣された隊員の合計は383名です。ちなみに、エルサルバドルの内戦は1979年から1992年まで続き、約7万5千人の戦死者を出す激しいものでした。(→P.25)
- 4 **ホント** 首都サンサルバドルに、「ヒラオ・サブロー公園」があります。この公園は、呉羽紡績(後の東洋紡)のエルサルバドル進出に尽力した平生三郎氏の功績を讃えるため東洋紡の寄付によって造られた公園です。公園内には植物園や日本庭園があり、市民の憩いの場になっています。
- 5 **×ウソ** 第2次世界大戦後の日本企業の最初の工場進出先はエルサルバドルで、それが呉羽紡績(→ 4)でした。呉羽紡績は当時10大紡績と呼ばれる大手の紡績会社で、後に東洋紡と合併します。エルサルバドルに設立された会社は「ユサ社」といい、現在も操業を続けています。

- 6 **ホント** 八重桜のようなつつじのような、そんなピンク色の花を咲かす木です。2005年には、日本とエルサルバドルの外交関係樹立70周年を記念し、両国の友好関係の象徴として、約700本のマキリシュアットの苗木をエルサルバドルに植樹する「サクラ・マキリシュアット・プロジェクト」が展開されました。



- 7 **×ウソ** 18世紀に最盛期を迎えたエルサルバドルの藍産業は、19世紀末ドイツで化学染料が開発されたことにより、いったんは衰退してしまいましたが、1992年のパナマ民俗学会議で藍産業復活が要請され1993年サンタアナ工房で再開されました。この藍染め復活に、日本も技術協力しているのです。藍工房を建設したり、専門家を派遣して技術を教えたりしています。エルサルバドルの藍染めはヨーロッパなどにも輸出されており、近い将来エルサルバドルの主要産業になるとも言われています。(→P.15)

- 8 **×ウソ** 2005年の統計によると、日本は、アメリカ、スペインに次ぎ、第3番目の援助国です。サン・サルバドルの空港やラ・ウニオン港は日本の国際協力のもと、建設されました。



ラ・ウニオン港

- 9 **ホント** プロジェクトXやアニメなど、日本の番組はエルサルバドルでも放映されているそうです。

マヤブルー復活！

① エルサルバドルの伝統的技術の復活に日本も関わっているんです。



1 次の4つの写真に共通するキーワードは何でしょう？

A



B



C



D



2 それでは、「藍」についてのクイズです。次の中で正しい答えは何でしょう？

E 「藍」は英語で「インディゴ」と言いますが、それは何が由来したことばでしょう？

- ① インド ② インディアン ③ インドラ(インド神話の軍神)

F 「藍」はマヤ時代にも染料として使われていましたが、その時代、染料以外の目的でも使われていました。どのような目的だったでしょう？

- ① 薬 ② 肥料 ③ 調味料

G 17世紀、エルサルバドルでは、カカオを抜いて藍が輸出品第1位となりました。そのころの様子を伝えるある物がサン・アドレス遺跡(→P.25)から見つかっています。さて、何が見つかったのでしょうか？

- ① 藍染めの洋服 ② 藍の沈殿槽 ③ 藍の原料になる草の畑

H 18世紀末から19世紀にかけ、エルサルバドルの藍産業は次第に衰退していきます。その原因は何だったでしょう？

- ① 化学染料が開発されたため ② 原料となる草が採れなくなったため ③ 藍染の人気なくなったため



① 4枚の写真に共通するのは「藍」です。

A 最近ではジーンズも様々な色のものがありますが、基本的には藍色「インディゴブルー」が使われています。藍は防虫などの効果がありますが、ガラガラヘビなどの爬虫類も藍の臭いを嫌うため、カウボーイたちが、藍の葉をジーンズの染色に用いたそうです。現在ではほとんどのジーンズが、人造藍で染色されています。

B**C** 日本で一般的に栽培されているタデ藍とそれから作った染料の写真です。
藍は春に種をまいて夏に刈り取ります。乾燥させたり発酵させたりして染料にするまで約10ヶ月かかります。

D エルサルバドルのカサブランカ遺跡公園に造られた藍の抽出槽です。藍染技術を普及するため、日本の援助によってつくられました。

② **E** ① **F** ① **G** ② **H** ①

エルサルバドルの藍の歴史

エルサルバドルにも藍が自生しており、マヤ時代の人々はその藍から染料をつくって、木綿の糸をブルーに染めたり、薬として煎じたり、身を清めるものとして体に塗ったりしていました。スペイン人が新大陸に到達したとき、マヤの藍染めに目をつけ、藍の栽培に力を入れました。17世紀には、それまで輸出品の1位を占めていたカカオを抜き、藍が取って代わりました。しかし、18世紀末ごろからカリブ海の制海権を牛耳るようになったイギリスがインドにおける藍栽培に力を入れたため、エルサルバドルの藍産業は次第に減少していきました。さらに、19世紀末ドイツで化学染料が開発され、決定的な打撃を受けました。1974年には、エルサルバドル最後の藍工房が閉鎖されています。

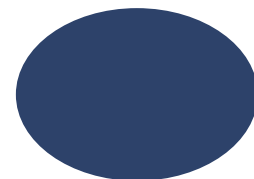
しかし、1992年、コロンブスのアメリカ到達500年祭において開かれたパナマ民俗学会議で藍産業復活の要請決議がなされ、翌1993年にはサンタアナ工房で藍染めが再開されたのです。この藍染め再開に技術協力しているのが日本政府です。専門家を派遣して技術を伝えたり、カサブランカ遺跡公園に工房をつくったりしています。

藍・インディゴ・ヒキリーテ

藍は英語でインディゴと言いますが、これは古代ローマのIndicum (顔料) から来ており、India (インド) に由来します。エルサルバドルではヒキリーテと呼ばれていますが、これはナワトル語 (マヤの言語のひとつ) のシウリキートルがスペイン語化されたもので、シウイトゥルは青、キリートルは草を意味します。

日本で藍は、飛鳥時代に中国から持ち込まれたと言われていますが、藍自体の歴史は古く、エジプトの紀元前2000年ごろのミイラには、藍で染めた麻布が巻かれており、その後インド、中国へと広がり、オーストラリアを除く全世界で栽培されたと言われていました。

藍の効用としては、繊維が締めり丈夫になる、防虫、消臭、紫外線カット、皮膚病の抑制などがあり、衣服の染色、化粧品、医薬品、祭儀用品などとして使われてきました。



藍色

地球は生きている！～火山と地震の国～

① エルサルバドルと日本、実はこんな共通点もあるんです。



1 下の写真は、エルサルバドルのイサルコ火山と日本の富士山の写真です。さて、どちらが富士山の写真でしょう？

A



B



2 エルサルバドルと日本、どちらも火山が多く、地震が多い国です。次の文章は、そんなエルサルバドルと日本のことを説明したのですが、()の中に、下の数字カードを組み合わせて入れて、文章を完成してください。ただし、下の数字カードは、すべて使います。()の中の数字は使うカードの枚数です。



日本には、全世界の約1割にあたる (C) ③ の火山がありますが、国土の面積が四国と同じぐらいのエルサルバドルにも (D) ② 以上の火山があります。中でも代表的な火山はイサルコ火山。美しい円錐形をしていて、まさに「エルサルバドルの富士山」です。標高は富士山 (E) ④ m に対して、イサルコ火山は (F) ④ m と約1/2ですが、太平洋側を航行する船は、この火山を目印にしており、噴火していたときは、「太平洋の灯台」と呼ばれていたそうです。

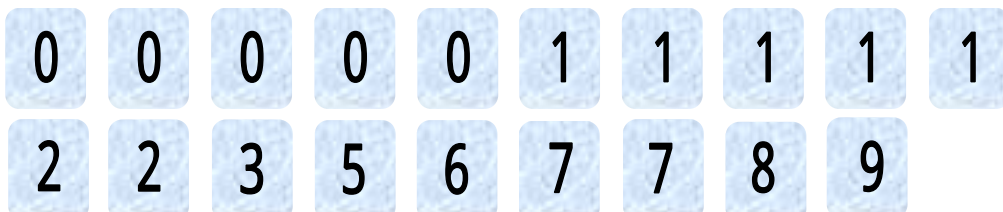


イサルコ火山の裾野にはイサルコ市がありますが、昔、ここには先住民族ピピルが多く住んでいました。イサルコは先住民族のことばで「黒曜石の家のある場所」を意味します。マヤ時代、ここはカカオの主要な産地でした。スペイン人はカカオに関心を持ち、過酷な労働を強いられたピピルは、イサルコ火山の噴火口を「スペイン人の地獄」と呼んでいました。やがて、カカオの農園はコーヒーのプランテーションに代わり、1932年、固有の文化を消滅させようとした当時の政府によってコーヒー園で働いていた数万人といわれるピピルが虐殺されたという悲しい歴史があります。現在、イサルコ火山の周辺地域は、自然が美しく、ピピルの伝統も存続し、「花街道」として観光地となっています。

エルサルバドルと日本は、地震が多い国でもあります。地震は、地球の表面を覆っているプレートと呼ばれる岩盤が押し合ったり引っ張ったりすることで起こると言われていますが、エルサルバドルも日本も複数のプレートが絡み合うと同時に、火山活動などによって揺さぶられるという似たような地理的条件を持っています。どちらの国も、地震や火山噴火が多発していますが、最近では、(G) ④ 年1月13日、阪神淡路大震災の (H) ② 倍以上のエネルギーを持つといわれる大地震がエルサルバドルで起こりました。余震による被害も大きく、1,000人以上の死者、8,000人以上の負傷者が出るといふ大惨事となり、日本からも多くの支援が行われました。



数字カード





P.17のこたえと解説です。



エルサルバドルと日本の意外なつながりを知り、エルサルバドルを身近に感じる。

1 [A] イサルコ火山 [B] 富士山

2 [C] 108 [D] 25 [E] 3,776 [F] 1,910 [G] 2001 [H] 10

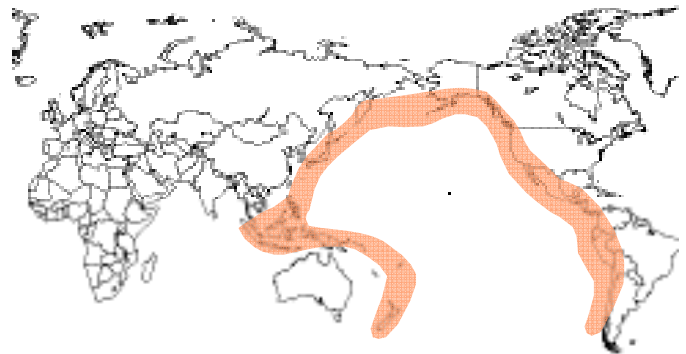
世界の火山と地震

気象庁では、概ね過去1万年以内に噴火した火山及び現在活発な噴気活動のある火山を活火山としています。

世界には約1,500の活火山があるといわれていますが、その75%が環太平洋火山帯に分布しています。環太平洋火山帯は「太平洋をめぐる火の輪(リング・オブ・ファイア)」ともいわれ、火山帯に沿って海溝も存在します。

日本には108の活火山があり、世界有数の火山国といえます。火山が噴火すると、火山灰、火砕流などが噴出したり、津波や地震が起こったりなどの災害が起こりますが、一方で火山は、火山周辺の温泉や豊かな水資源など美しい自然をつくりだしてくれます。

環太平洋火山帯



環太平洋火山帯は、地震活動も活発です。地震の起こり方は大きく分けて2つあります。ひとつは、「海溝型地震」。地球の表面は、プレートと呼ばれる厚さ数十kmの岩盤で覆われていますが、海溝(海底が細長い溝状になっているところ)では、プレートとプレートが重なり合っています。そのプレート同士の境目でゆがみのエネルギーがたまり、限界に達すると元に戻ろうという力が働いて、地震が起こってしまうのです。もうひとつは、「内陸型(直下型)地震」です。プレート内部に変形する力が働いて、それが限界に達すると地震が起こってしまうのです。

エルサルバドルも日本も環太平洋火山帯に位置しています。さらに、エルサルバドルは、カリブプレートに乗っていますが、その下にはココスプレートが沈み込んでいます。日本は、ユーラシアプレート、北米プレートに乗っており、その下に太平洋プレート、フィリピン海プレートが沈み込んでいます。両国ともそうした複雑な地形にあるため、地震や火山活動が起こりやすいのです。

火山は、その形やでき方によっていくつかの種類に分けることができます。たとえば...



エルサルバドル地震と日本の防災活動

2001年1月13日午前11時35分(日本時間1月14日午前2時35分)ごろ、エルサルバドルを中心にマグニチュード7.6の地震が発生し、死者827名、負傷者4,520名という大きな被害を出しました。さらに、その後も余震が続き、2月13日には、マグニチュード6.1程度の大きな地震が再びエルサルバドルを襲いました。日本政府は直ちに医療チームを派遣するなど、緊急援助にあたりました。多くのNGO/NPOも被災地救援にあたり、日本各地で募金活動が行われました。

日本は、災害経験の多い国なので、そこで得た教訓や防災に関する知識や技術を活用し、救助チーム、医療チームなど国際緊急援助隊を被災地に派遣したり、緊急援助物資を送ったりするなど、国際防災協力を積極的に進めています。また、災害被害をできるだけ少なくするため、地域での防災活動にアドバイスをしたりしています。

さらに、災害時におけるボランティア活動を充実させるため、毎年1月15日から21日までを「防災とボランティア週間」、1月17日を「防災とボランティアの日」に定め、さまざまな行事が全国的に展開されています。これは、平成7年1月17日に発生した「阪神・淡路大震災」を踏まえて、設けられたものです。



フォトギャラリー

町のパレード・子どもたち・市場：原崎康穂 独立記念日・セマナ・サンタ・アルフォンブラ：井上 博



年1回の町のお祭り。パレードの様子です子どもたちも民族衣装を着てパレードに参加!



エルサルバドル独立記念日(9月15日)のパレード。



日本の援助で贈られたボールでサッカーの練習をする子どもたち。サッカーが一番人気のあるスポーツです。



セマナ・サンタ。イエス・キリストのお葬式を行う「キリスト復活祭」です。キリストの胸像や棺桶、教会の模型などをパレードで運び、喪に服します。



アルフォンブラ。道路上に絵で描かれたカーペットのようなもの。パレードで通過予定の道路上に一晚で描かれます。キリストが通過するまで、絶対に踏んではいけません。



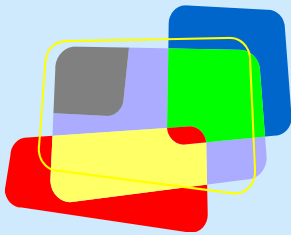
道路に並ぶ市場。生活必需品なら何でもそろいます。



生きてるニワトリだって売ってるんです。

 第3章

一緒に考えよう！こんな課題



ごみはごみ箱に捨てましょう！！

② 人が生きている限り、避けられないゴミ問題。
さあ、あなたはどうか対処しますか？



① さて、下の写真、エルサルバドルの新聞に掲載された写真です。何の写真だと思いますか？



② エルサルバドルでは、何かを食べたり飲んだりしたあとのごみを「ポイツ」と投げ捨ててしまう悪い習慣があります。その結果が下の写真。いけないとは思いつつ、なかなか直らないのがちょっとした習慣ですよね。



ゴミ箱

井上 博

③ さて、みなさんがエルサルバドルのリーダーだったら、どうやって、町を美しくし、自然を美しくするよう、人々に訴えかけますか？「ごみはごみ箱に捨てましょう」キャンペーンを企画し、模造紙に企画書をつくってみましょう。

④ 全員でキャンペーン企画を発表し、感想を話し合ってみましょう。



P.21の解説です。



エルサルバドルの事例に学び、身近なゴミ問題を通して、自分の日常生活をふりかえる。

- 1 みんなが道路や川に投げ捨てた大量のゴミが雨や風によって、川から海へ流れ、湾に浮かぶ小島に流れ着いてしまった様子です。
- 2 (左) 投げ捨てられたゴミが橋げたに引っかかり、水の流れをせき止めて橋を壊してしまうこともあります。
(右) サン・サルバドル近郊の公園。ゴミ箱があるにも関わらず、「食べてはポイっ」を繰り返した結果...

ゴミ問題

人々の生活レベルが向上していく上で、避けて通れないのがゴミ問題。先進国はもちろんですが、開発途上国でも大きな問題になっています。増え続ける一方のゴミに廃棄物処理場が不足するなど処理が追いつかないということもそうですが、昔なら「土にかえる」ものがほとんどだったのでゴミをポイッと捨てても何の問題もなかったのに、最近では、ビニルやプラスチックの製品が増え、「土に返らない」ゴミが増えてしまったのにも関わらず、人々の意識が変わっていないというのも原因のひとつでしょう。

一方、ゴミがきちんと処理されないと、町の景観などもそうですが、衛生面でも環境面でも様々な問題が発生します。

地球温暖化など、地球的規模の課題にも結びついてしまうのです。

エルサルバドルでの取り組み事例

子どもたちに環境について考えてもらうため、環境をテーマにしたパレードが世界環境デー（6月5日）にあわせて行われました。



自分たちがどのような街に住みたいかを環境の視点から絵で描いたコンクールが実施されました。



サッカー戦争...平和な社会をつくるには？

① 戦争ってどうして起こっちゃうのでしょうか？ 平和な社会をつくるためにはどうすればいいのでしょうか？

① 1969年のことです。エルサルバドルとホンジュラスの間で戦争が勃発しました。いわゆる「サッカー戦争」と呼ばれる戦争です。まずはその概要を読んでみましょう。



1970年のサッカーワールドカップはメキシコで行われましたが、1969年にはその出場権をかけた中米地区予選が行われていました。決勝に残ったのは、エルサルバドルとホンジュラス。第1回戦は、ホンジュラスの首都テグシガルパで行われましたが、その前日エルサルバドル選手が宿泊するホテルの前でホンジュラスファンが一晩中大騒ぎをして安眠妨害をするという熱の入れようでした。結果、試合は1対0でホンジュラスの勝利。その試合をテレビで見ていたエルサルバドルの18歳の少女が「祖国が負けることが耐えられなかった」とピストル自殺してしまいました。葬儀には、大統領や大臣、エルサルバドルチームの選手もかけつけ、彼女はエルサルバドル国民の英雄になってしまったのです。



第2回戦は、エルサルバドルの首都サン・サルバドルで、軍隊も出動する物々しい雰囲気の中行われました。ホンジュラスの試合のときと同じように、ホンジュラス選手が宿泊するホテルの前で、エルサルバドルチームのファンが大騒ぎし、試合は3対0でエルサルバドルが勝利しました。試合終了後には暴行事件や殺人、放火などが繰り返されました。

戦争が起こったのはこの直後です。6月25日、エルサルバドルはホンジュラスとの外交を断絶し、27日にはホンジュラスも国交断絶を宣言します。そして、7月14日、エルサルバドル空軍機がホンジュラスを攻撃するのです。この戦争は4日間で終結し「100時間戦争」とも呼ばれていますが、2000人の死者を出したと言われています。

「サッカー戦争」と呼ばれていますが、この戦争の背景にはいくつかの要因がありました。1つにはエルサルバドルとホンジュラスの国境の一部が不確定であったこと、人口密度の高いエルサルバドルからホンジュラスへ合法・非合法に移住する移民が多く摩擦が起きていたこと、工業化の進んだエルサルバドルと農業に頼っていたホンジュラスとの間にはかなりの貿易不均衡があったことなどです。

② さて、この「サッカー戦争」、どうすれば起こらなかったと思いますか？グループで考えてみましょう。

③ 「サッカー戦争」が終わったあと、どんなことが起こったか聞いてみましょう。(P.24)

④ さて、「サッカー戦争」について、みなさんはどんな感想を持ちましたか？もしかしたら身近に同じようなことはないでしょうか？ みんなで話し合ってみましょう。



『サッカー戦争』の背景

『サッカー戦争』は「愚かな戦争」として語り継がれていますが、実際にはサッカーは戦争の原因ではなく、きっかけに過ぎませんでした。その背景にはいくつかの要因があります。

1821年スペインから独立して以来、エルサルバドルとホンジュラスの国境線はあいまいで領土問題が頻発していました。川を境に国境線を決めた場合、雨季と乾季で境が変わってしまうことも原因の一つです。特に、ホンジュラスはエルサルバドルよりも5倍広く、人口は半分以下。また、エルサルバドルでは一部の富裕層が土地を独占していたため、多くの国民は土地を持つことができず、国境未確定地帯には多くのエルサルバドル人が住み、ホンジュラス国内に土地を求めて多くの不法移民が住み着いていたのです。

1960年代、エルサルバドル、ホンジュラス、ニカラグア、グアテマラ、コスタリカの5カ国は「中米共同市場」を結成し、貿易や工業化を進めましたが、経済状況や生活水準の違いにより、どんどん格差が広がっていきました。エルサルバドルは工業化を進め、他の国に製品を売り込んでいきましたが、ホンジュラスは工業化が遅れたため、経済的な上下関係ができました。さらに、ホンジュラスはバナナ農園が主産業ですが、そのころ農園は近代化し労働者の数が減らされたため、失業者が急増しました。そうすると、エルサルバドルからの不法移民との対立が激化し、その状況を憂慮したホンジュラス政府の政策により移民が強制送還されると、両国の関係はさらに悪化しました。

そんな状況の中でサッカーワールドカップが行われ、戦争へと発展してしまっただけです。

『サッカー戦争』の結末

戦争はエルサルバドル軍優位で進みましたが、4日目には、米州機構(南北アメリカにおける紛争の平和解決を進める機関)の調停により休戦しました。(ただし、正式に和平合意に調印するのは1980年のことです。)

この戦争により、10万人以上の移住者がホンジュラスからエルサルバドルに戻ってくることになり、国内の治安・経済悪化につながり、エルサルバドルは1970年代後半に起こる中南米紛争、内戦へと突入してしまうのです。(P.25)

ちなみに、サッカーワールドカップ予選の第3回戦は6月27日に行われ、3対2でエルサルバドルが出場権を獲得します。また、和平合意に調印した1980年には、ワールドカップの地区予選が行われ、12年ぶりに両国のサッカー対決が実現しました。結果は0対0の引き分けで、両国そろって2年後のスペイン大会に出場しました。

余談ですが、サッカー戦争の最中の1970年7月16日、アメリカNASAから「アポロ11号」が打ち上げられ、20日には人類が初めて月面に着陸しました。

戦争と平和

「戦争」とは、特に、国家が他国に対し、自己の目的を達するために武力を行使することを言います。国同士ではない争いは「紛争」といい、現在地球上で起こっている争いはほとんどが「紛争」です。戦争(紛争)は、人々を苦しめ、多くの命を奪います。また、最大の環境破壊でもあります。

それでは、「平和」な社会とはどのような社会を言うのでしょうか? 「戦争」でなければ「平和」と言えるのでしょうか? 例え戦争でなくても、極度の貧困、政治的抑圧、人種差別、飢餓などの状況がある社会は「平和」であるとはいえません。

また、「戦争」という他の国のできごとで身近ではないと考えがちですが、その原因をずっとたどっていくと、決して遠い国のことではないと気づきます。例えば、いじめの原因をずっとたどっていくと、戦争の原因と結びつかないでしょうか? 「対立」というのはどんどんエスカレートしてしまうものです。ちょっとした行き違い、摩擦がどんどんエスカレートしていくと最悪の場合には「戦争」になってしまうのです。また、表面化されない「対立」が続いていると、サッカー戦争のように何かのきっかけで爆発してしまうかもしれません。人はそれぞれ立場も考え方も異なります。意見の相違や対立を避けることはできません。それが起こったとき、どう対応するかが大切です。



ちょっとブレイク




エルサルバドル内戦

エルサルバドルでは1979年～1992年までの約12年間、内戦状態が続きました。犠牲者は75,000人に達し、経済的な損害は約50億ドルにも上ると推定されています。そして、その内戦の勃発は、エルサルバドルのコーヒー生産にも原因があると言われていました。

エルサルバドルが自国の産業を「コーヒー生産」に特化し、世界市場へ参入していったのは19世紀後半のことです。1930年代には、エルサルバドルの総輸出額の90%以上がコーヒーの輸出でした。そうした偏った経済産業は、土地所有の集中を招き、大農園主と農業労働者という国民の2分化、極端な貧富の差を生み出してしまうのです。その状況はよく、「14家族(カトルセファミリア)」ということばで表されます。14の家族がエルサルバドルの富を独占しているという意味ですが、実際に具体的な14家族が存在していたわけではありません。エルサルバドルが14の県に分かれていたことから各県に1人と象徴的に使われていたことばです。実際には、250ぐらいの家族が特権支配層として、エルサルバドルの富を握っていたと言われていました。歴代の大統領も大農園主の出身でした。

そうした経済的な格差に加え、軍事独裁政権というエルサルバドルの政治システムによって、国民の不満はどんどん膨れ上がっていたのです。さらに、1973年の第1次オイルショック、1979年の第2次オイルショックはエルサルバドル経済に大打撃を与え、都市人口の半分がスラムでの生活を強いられる状況になりました。そんな閉塞的な社会の中で、隣国ニカラグアの社会主義革命の影響も受けて反政府組織が結成され、内戦へと発展していくのです。

この内戦で、エルサルバドルは多くの人的、物的、経済的損失を出してしまいましたが、1980年以降、和平交渉が何度も重ねられ、国連の積極的な介入もあり、1992年1月メキシコシティで和平合意が調印されて内戦は終結しました。エルサルバドル政府は内戦後、「経済社会開発計画」を発表し、貧困削減、教育・保健衛生・住宅・環境などの改善に取り組むなど、国内復興は順調に進められています。日本政府もそうした国内復興に多額の支援をしています。

 『内戦後の平和構築をいかに進めるか=エルサルバドルの事例研究=』
田中高著(独立行政法人国際協力機構国際協力総合研修所)

エルサルバドルに残るマヤ時代の遺跡

マヤ文明の遺跡と言えば、コパン(ホンジュラス)やティカル(メキシコ)などが有名ですが、エルサルバドルにもホヤ・デ・セレン、サン・アンドレス、タスマル、カサ・ブランカ、チャルチュアバ、シウアタン、サンタ・マリア、エル・カルメン、ケレバ、サンタ・レティシアなど、その時代の遺跡が多く残っています。

● ホヤ・デ・セレン遺跡

1976年に発見され、1993年にユネスコの世界遺産に登録された遺跡。西暦600年ごろ、近くのラゲーナ・カルデラ火山の噴火により火山灰に埋もれてしまった村落が昔の姿のまま残っていたため、「中米のポンペイ」とも呼ばれます。

土造りの家の中には、食べ物の残った土鍋のある台所やトウモロコシの入ったビンのある倉庫がそのまま残っています。家の周りには、トウモロコシ畑やカカオの木が植えられている庭も発見されました。また、日用品や黒曜石のナイフ、台所用品、黒焦げの豆などからその当時の生活が垣間見られます。人々は経済的にかなり豊かに生活していたようで、土製の器など、他の地域からの品物も発見されており、交易を行っていた様子も伺えます。この遺跡から人体は発見されておらず、ポンペイとは異なり、人々は噴火の被害から逃げる時間的余裕があったようです。



ホヤ・デ・セレン遺跡

● サン・アンドレス遺跡

1910年に発見された遺跡。中心にピラミッドがあり、支配者をまつたものと言われていますが、だれが何のために造ったのかはわかっていません。発見された出土品からマヤ文明のものともみられています。マヤ文明特有の文字が見つからないため、マヤ文明との関連を否定する学説もあります。



サン・アンドレス遺跡

● タスマル遺跡

紀元前1200年ごろに生まれたエルサルバドルで最古の集落のひとつです。タスマルとは「いけにえが焼かれたピラミッド」を意味します。マヤの神話ポボル・ヴフによると「神をたたえて神をやしなう」目的でいけにえが行われたとされています。この時代、すべてのものに神が宿るといふ多神教が崇拝されていました。自然が恵みをもたらしてくれる代償として人間を代償にしなればいけないと考えられていました。

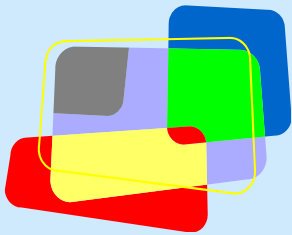


タスマル遺跡



第4章

そして未来へ



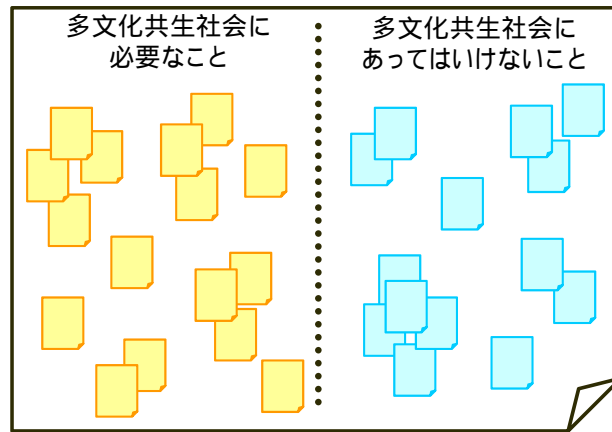
『多文化共生社会』ってどんな社会？

① 地球のみんなが一緒に生きていくということは
どうのことなのでしょう？



- ① みなさんは、『多文化共生社会』ということばを聞いたことがありますか？
「多くの文化が共に生きる社会」というのは、いったいどんな社会でしょう？
「多文化共生社会に必要なこと」を黄色い付箋紙に、「多文化共生社会にあってはいけないこと」を青い付箋紙に書き出してみましょう。付箋1枚に1項目ずつ、できるだけたくさん書いてみてください。

- ② 4～6人のグループに分かれましょう。
各グループで模造紙を用意し、半分に区切ります。左側には「必要なこと」、右側には「あってはいけないこと」を貼っていきます。みんなの意見を共有するために、1人ずつ読み上げながら貼ってください。また、他のメンバーが似たようなものを貼った時はその近くに貼ってください。



- ③ 模造紙にまとめたことをもとにグループで「多文化共生社会とは……な社会」という文章をつくってきましょう。

- ④ では、そんな社会を実現するために、私たちにできることは何でしょう？
一人ひとり、A4の紙に「私たちにできること7か条」を書いてみましょう。

- ⑤ 一人ひとりがつくった7か条をもとに、グループで「多文化共生社会を実現するための7か条」にまとめ、右のように模造紙に書いてみましょう。

- ⑥ 全員で発表し、感想を話し合きましょう。

多文化共生社会とは	
な社会	
そんな社会を実現するための7か条	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	

号外！号外！20年後の新聞です



20年後の地域と地球はどうなっているでしょう？
どうなっているといいでしょう？

みなさんは新聞記者です。20年後の明日発行する新聞記事を書いているところです。
20年後はどんなニュースが新聞に載っているでしょうか？ だれにでもわかりやすいことばでまとめてみましょう。

- 1 まずは、グループで新聞名を決めましょう。
模造紙を横にして半分に区切り、
新聞名と日付を書き込みましょう。

20xx年 月 日	20xx年 月 日

新聞

- 2 20年後地域と地球がこんな風になっている
といいなと思うことを想像し、ニュース記事に
まとめてみましょう。模造紙の右半分に地域のニュースを、左半分に地球のニュース(あるいは、エルサルバドル
のニュース)を書きます。

- 3 全員で発表し、感想を話し合ってみましょう。

- 4 さて、今の生活を続けていったとき、ニュースにまとめたような地域や地球が実現できると思いますか？
実現するために、自分がやろうと思うことを1つ決めて、グループで共有しましょう。

多文化共生社会

1990年の入管法改正により、主に南米からの日系人が多く日本に住むようになりました。近所や学校、職場に外国籍の方がいるのがあたりまえの状況の中でことばの問題、文化・生活習慣の違いからくるトラブル、子どもたちの教育問題、近年の経済悪化による雇用の問題などさまざまな課題が生じています。そうした課題に取り組む中で目指しているのが、「多文化共生社会」の実現です。この「多文化共生社会」とは、「国籍にも、性別にも、年齢にも、障害の有無にも関わらず、すべての人が暮らしやすい社会」と位置づけられています。愛知県が2008年にまとめた「多文化共生推進プラン」では、愛知がめざす多文化共生社会を「国籍や民族などのちがいににかかわらず、すべての県民が互いの文化的背景や考え方などを理解し、ともに安心して暮らせ活躍できる地域社会」としています。そうした社会を実現するために、2006年には、総務省から各自治体に向けて「地域における多文化共生推進プラン」が出されました。その中では、特に外国籍住民も暮らしやすい社会を創るために、次のようなことに取り組んでいくと書かれています。

コミュニケーション支援

多言語による情報提供、相談窓口の設置、日本語学習の支援など

生活支援

入居差別の解消、教育にかかる情報提供、進路指導、就業支援、就業環境の改善、外国語対応可能な病院・薬局等の情報提供、医療通訳者の派遣、健康診断・健康相談の実施、高齢者や障害者への対応、災害時の通訳ボランティアの育成、災害時の情報の多言語化など

多文化共生の地域づくり

地域住民への啓発、多文化共生の拠点づくり、外国籍住民の地域社会への参画推進など

地球的課題(グローバルイシュー)

一国では解決することが難しい、人類共通の課題を「地球的課題」「地球規模の課題」「グローバルイシュー」といいます。大きく分けると4つ。これらの課題は、包括的かつ相互的に関連しています。

地球環境

先進国の経済成長などに伴うオゾン層破壊、地球温暖化、酸性雨、砂漠化、海洋汚染、ごみ問題、野生生物の絶滅など地球規模で発生している課題です。

貧困と開発

南北問題に伴う貧困、それによる食糧不足、飢餓、衛生面での問題、教育の問題、児童労働など子どもや女性など弱者にかかる問題、持続可能でない開発による環境破壊など。地球規模の構造的な課題なので、途上国だけでは解決できません。

平和と安全

核兵器や生物化学兵器など、国境に関係なく被害を及ぼす兵器の根絶、テロの問題、地域紛争の解決と平和維持、児童兵士の問題などです。

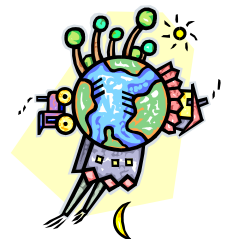
人権

民族差別や紛争などにおける難民の問題、貧困と開発のために過剰な労働を強いられる女性や子どもの問題、人間として最低限必要なものさえ保障されない極度の貧困の問題などです。

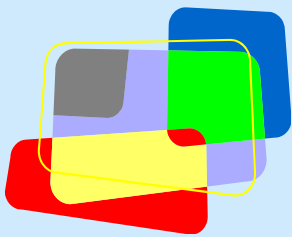
地域の課題と地球の課題はつながっている ~「持続可能な」社会を創るため~

地域の課題と地球の課題は別のものと考えてしまいがちですが、だれもが暮らしやすい「持続可能」な社会を創るという意味では共通しています。また、地域の課題を解決していけば地球の課題の解決にもつながりますし、地球の課題を解決しなければ、地域の未来もないのです。

地域の課題も地球の課題も「だれかが解決してくれる」ものではありません。途上国の多くの課題も原因を突き詰めていけば、わたしたちの日常生活につながってきます。わたしたち一人ひとりが地球の一員として、地域の一員として、自分の問題として、解決に向けて取り組んでいかなければ、次世代に課題を持ち越してしまうことになるのです。



参 考 资 料




目で見るエルサルバドル




紋章の中央には「自由の帽子」が描かれ、周囲には中米合州国として独立した日付が書かれています。5つの火山と旗は、中米5カ国を表します。スペイン語で「神・団結・自由」と書いたりボンがあり、全体が月桂樹で囲まれ、その周囲には「中米エルサルバドル共和国」の文字があります。青は常に水晶のように透き通っているこの国の空を、白はこの国が平和と調和を望む国であることを表しています。

●人口●


 676万人(2004年経済省統計局)




 128百万人



●面積●

 21,040km²
(九州の約半分)

 377,887km²

●言語●

スペイン語



●宗教●

カトリック

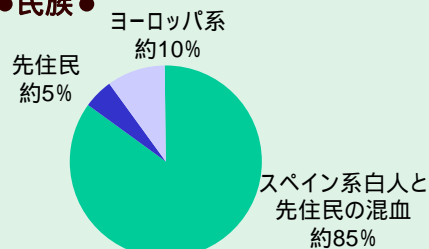


●気候帯●

沿岸部
熱帯サバナ気候



●民族●

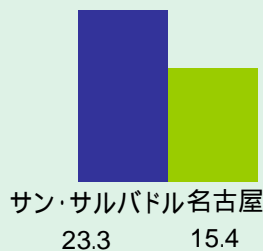


●通貨●

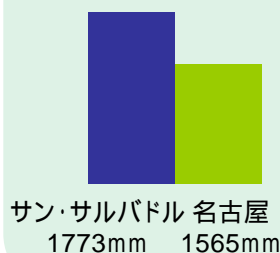
ドル



●平均気温●

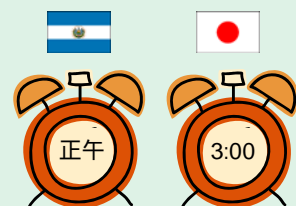


●年間降水量●



●日本との時差●

- 15時間



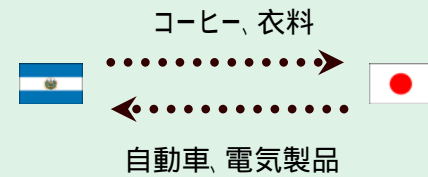
国旗:『世界の国旗』吹浦忠正監修(Gakken) 人口・面積・首都・民族・通貨:外務省ウェブサイト「各国・地域情勢」 日本の人口:世界子供白書2008(ユニセフ) 日本の面積:総務省統計局「日本の統計」 気候帯・平均気温・年間降水量:外務省ウェブサイト「探検しようみんなの地球」 名古屋の平均気温・年間降水量:気象庁観測部観測課観測統計室「日本気候表」(S46~H12年の平均) 言語・日本との時差:世界の国一覧表(財団法人世界の動き社)

●主要産業●

マキラ製品
(保税区で生産された衣類等)
農業(コーヒー、砂糖)



●日本との
貿易主要品目●



●一人あたりのGNI●

2,540米ドル(2006年世銀)



38,410米ドル(2006年世銀)



●在留邦人数●

170人(2007年10月現在)



●在日エルサルバドル人数●

104人(2005年12月現在)

●出生時の平均余命●

72年

82年



●都市人口の比率●

60%(2006年)

66%(2006年)



●5歳未満児の死亡者数●
(出生1000人あたり)

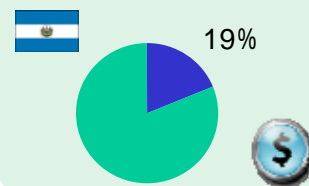
4人(2006年)



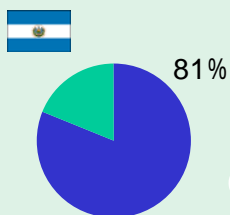
4人(2006年)



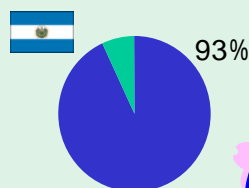
●1日1ドル以下で暮らす人の比率
(1995~2006年)



●成人の総識字率●
(2000~2005年)



●初等教育
純就学/出席率●
(2000~2006年)



●人口増加率●
(1990~2006年)

1.8%

0.2%



主要産業・日本との貿易主要品目・在留邦人数・在日エルサルバドル人数:外務省ウェブサイト「各国・地域情勢」
一人あたりのGNI・出生時の平均余命・都市人口の比率・5歳未満児の死亡者数・成人の総識字率・初等教育純就学/出席率:人口増加率:世界子供白書2008(ユニセフ)

エルサルバドル地図



中米







参考文献・データ等の出典

外務省「各国地域情勢」

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/>

外務省「探検しよう! みんなの地球」

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sanka/kyouiku/kaihatsu/chikyu/index.html>

総務省統計局「日本の統計」

<http://www.stat.go.jp/data/nihon/index.htm>

財団法人日本ユニセフ協会「世界子供白書2008」

<http://www.unicef.or.jp/library/index.html>

JOCV@エルサルバドルブログ

<http://sayito.blog67.fc2.com/blog-entry-217.html>

どんたこすのホームページ

<http://dontakos.hp.infoseek.co.jp/>

エルサルバドル大使館パンフレット

『エルサルバドル、ホンジュラス、ニカラグアを知るための45章』田中 高 著 (明石書店)

ご協力いただいた方たち【敬称略】

原崎康穂 (JICA青年海外協力隊OG)

井上 博



2008年度教材作成チーム

一宮市 田原市

長久手町 幸田町

扶桑町

特定非営利活動法人 NIED・国際理解教育センター

財団法人 愛知県国際交流協会



世界の国を知る  世界の国から学ぶ

わたしたちの地球と未来

 エルサルバドル共和国 

2009年3月

発行 愛知県

**企画
編集** 財団法人 愛知県国際交流協会
〒460-0001

名古屋市中区三の丸二丁目6番1号
あいち国際プラザ

TEL: 052-961-8746 FAX: 052-961-8045

E-mail: koryu@aia.pref.aichi.jp

URL: <http://www2.aia.pref.aichi.jp>

印刷 株式会社 丸和印刷

